令和4年12月27日

令和4年度 第4回西宮市民ファミリーハイキング事業報告

奥アンツーカ（株）

【実施日時】令和 4 年 10 月 29 日(土) 9:30～12:10

【実施概要・コース】

今回は、最初から中級と初級に分かれ、体力に合わせてのハイキングを楽しみました。

まず、中級コースは、9:30にJR甲子園口駅を出発、すぐ近くのマンボウトンネルを見学後、松山大学温山記念会館を外から見学しました。

温山記念会館は、 松山大学創立者・新田長次郎(温山)翁が娘婿の建築家・木子七郎氏に設計を依頼した広大な庭園内に佇むスペイン風洋館で、1928（昭和3）年に建てられました。記念会館は、1棟西面敷地中央の北寄りに建ち、東西20m、南北15mの規模で、RC造2階建、寄棟造、スパニッシュ瓦葺の建物です。表門からやや奥に建ち，正面に車廻しを付け，外観を洋風意匠でまとめ、堂々とした構えとなっています。1989年10月、松山大学創立者の新田家から寄贈を受け、松山大学教育研究の関西での拠点として、学生のゼミナール活動や研究会議などに利用されているそうです。

「この近くの旧甲子園ホテルとともに、甲子園口の辺りには戦前には、登録有形文化財となるような素敵な近代建築が並んでいました。」という説明を聞いた後、日本百名橋の一つ、武庫大橋に向かいました。

武庫大橋は、 国道 2 号線上にある武庫川に架かる橋で日本百名橋に選ばれ、土木学会選奨土木遺産にも認定されています。増田淳の指導のもと、1925 年 8 月から 1 年 4 ヵ月をかけて完成し、かつては路面電車の阪神国道線も併設されていました。橋の中央部にバルコニーがあり、高欄は北木石でつくられています。

この武庫大橋を見ながら、川面を吹く風が心地良い武庫川河川敷に降り、しばらくは川沿いを歩きました。

その後、旧甲子園貨物線跡（現在、一部は阪神武庫川線）の跡を旧国道上から眺めつつ、阪神武庫川駅自由通路に向かいました。

この旧貨物線は、現在は武庫川団地となっている西宮市高須町にあった軍需工場、川西航空機(現・新明和工業)への従業員および資材輸送のため、西ノ宮駅(現・西宮駅)から国鉄貨車の乗り入れのため開業しました。開業当時の洲先駅は現在の武庫川団地前駅付近にあたり、武庫大橋 - 洲先間は三線軌条化され、旅客輸送も行われていました。貨物輸送は川西航空機工場を接収した進駐軍の要請もあって戦後も続けられましたが、1958 年(昭和 33 年)に正式に休止となりました。

旅客営業は、戦後すぐに全線の旅客営業が休止とされた後、1948 年 10 月に武庫川から現在の洲先駅までの 1.1km のみ運行が再開されました。その後、武庫川団

地の開発に伴って 1984年(昭和 59 年)に武庫川団地駅まで延伸され、現在に至っています。

そんな歴史を振り返りながら歩いているうちに、阪神武庫川駅に着きました。駅構内に残る、旧武庫川貨物線を利用した武庫川線電車の回送線を横切る踏切を通って、武庫川上の駅構内にある西宮市と尼崎市を結ぶ自由通路を渡りました。当日はお天気も良く、川面を渡る風が心地よく感じられました。

この阪神武庫川駅は、1905年(明治38年)、阪神電鉄開業とともに誕生し、開業時には全長が約14メートルの車両が1両で走り、ホームは橋の外側の現在の尼崎市側に位置していました。

橋の上につくるきっかけとなったのは、大正時代の武庫川の改修工事と言われています。駅をどこに設置するかについては、様々な案が出され検討された結果、橋の上にホームをつくれば新たな用地買収の費用を抑えられるうえ、川の両側の住民から近いため、最も合理的と判断され、1921年(大正10年)ごろに尼崎市に近い側の一部にホームを設ける格好で、新しい武庫川駅が誕生しました。

ホームが橋全体に広がり、改札が両端にできるようになったのは1984年(昭和59年)で、経済成長で人口が増え、車両数を増やしホームを延ばす必要が生じたためです。

ここで、いったん尼崎市側に渡ったところで、小休止をとり、再び河川敷を歩いた後、もう一度、武庫川を渡って西宮側に戻り、新鳴尾川沿いを歩くと、URの浜甲子園団地に入りました。

そして、最後の見どころの旧鳴尾競馬場本館（現武庫川女子大学附属中学・高等学校）に行きました。鳴尾競馬場は明治40（1907）年に関西競馬倶楽部により「関西競馬場」として創設され、同43（1910）年に同じ鳴尾浜にあった「鳴尾速歩競馬場」と合同し「鳴尾競馬場」と改称されます。昭和10(1935)年には現在の建物が完成、阪神競馬倶楽部が日本競馬会に統合された際には競馬場も「阪神競馬場」へと名称変更されました。昭和18(1943)年には太平洋戦争の拡大に伴って競馬場は軍に接収され本館は飛行場(鳴尾飛行場)の管制塔に転用、戦後は米軍がキャンプ基地として使用し、昭和35(1960)年に武庫川女子大学がこの地の払下げを受け、以降は校舎建設の中にこの本館も取り入れられ現在までその姿を残す事になっています。

この日は、この旧鳴尾競馬場の貴賓室などを見学させていただきましたが、当時の貴賓室の意匠を凝らした建築様式に感心しつつ、最後は、浜甲子園運動公園で解散の約7.1kmを歩き、ハイキングを終了しました。

令和4年度　第4回ハイキング（武庫川河川敷・旧貨物線・旧鳴尾競馬場）の行程図　（地理院地図より）